

第 74 次教育研究全国集会 全体集会 あいさつ  
日教組第 74 次教育研究全国集会開催地運営委員会 運営委員長 島崎 直人

全国各地から日教組第 74 次教育研究全国集会にご参画、またご参加いただきました皆さんに心から敬意を表するとともに、感謝を申し上げたいと思います。

私は、今次教研において、現地の運営委員長を担当させていただいております、神奈川県教職員組合 執行委員長の島崎直人です。現地運営委員会に結集している各構成組織を代表し、ごあいさつをさせていただきます。

今次教研は、新たなとりくみとして、大きく 2 つのことにチャレンジする運営となりました。

一つめは、本日皆さまにご参加いただいております、「Web にての全体集会」の開催です。新型コロナ禍においても、開催はございましたが、その時の経験を活かし、今までの教研以上に、一人でも多くの方に、そして、時間のゆとりをもって、全国どこからでも参加していただきたいとの願いが込められています。

2 つめは、京浜大会という名称からおわかりになるように、東京から横浜までの、都県に跨がった会場で行うという試みです。さらには、分科会の運営スタッフにも、関東ブロックの単組にもご協力をいただきました。

移動面ではご参加いただく方に、若干不便な点もあるかと思いますが、会場確保や運営にかかる負担の軽減のために、ご理解をいただければと思います。

1 週間後の皆さまのご来訪を、心からお待ちするとともに、残された時間はわずかではありますが、万善の準備をすすめて参りたいと思います。

また、現地運営委員会では、今次の教研において、特別分科会の企画を中心となってすすめてきました。若干、その概要を紹介させていただきたいと思います。

1859 年に横浜港が開港し、昨年で 165 年が経過しました。この間、在日韓国・朝鮮や中国にルーツを持つオールドカマーの方々に加え、1975 年以降はインドシナ難民の受け入れ先の一つにもなりました。

当時、神奈川県では、国や他自治体に先駆けて、県内の外国につながる住民との共生をめざし、民衆同士、地域同士の国境を越えた交流、いわゆる「民際外交」をスタートさせ、そのとりくみは、現在に至っております。

そして近年では、居住地も以前の「集住」という形態から、県内様々な自治体での「散在」及び「多言語化」という状況が広がりつつあります。

そこで、今回の特別分科会のテーマを「日本に住む多文化の子どもと教育」とし、幼児期から青年期までの各時期において、当事者の言葉とともに、学校だけではなく、地域社会としてとりくんできた、そして、まさに今とりくみをすすめている様々な実践を紹介し、認識を深め、未来を模索していきたいと思います。

どうぞ、多くの方にご参加頂ければと切に願っております。

今次教研で展開される多様な教育実践が、未来の多様な社会を創造していくことを祈念して、多文化共生のまちから、歓迎のあいさつとさせていただきます。